

# SACCIM サクシム

一つながりを保ったまま距離を置ける人間関係を作るために

## 大学や社会のような多様な人がかかわる大きな集団

各人の極めて複雑なリソーススケジューリングのもとに、広くて浅いコミュニケーションが展開されています。そのため、誰かとある程度深い人間関係を作るには、長期的な取り組みが必要です。また、相手にとっての自分の好感度の高さを正確に把握することはとても難しく、関係を強制することになってしまう不安が常にあると考えます。

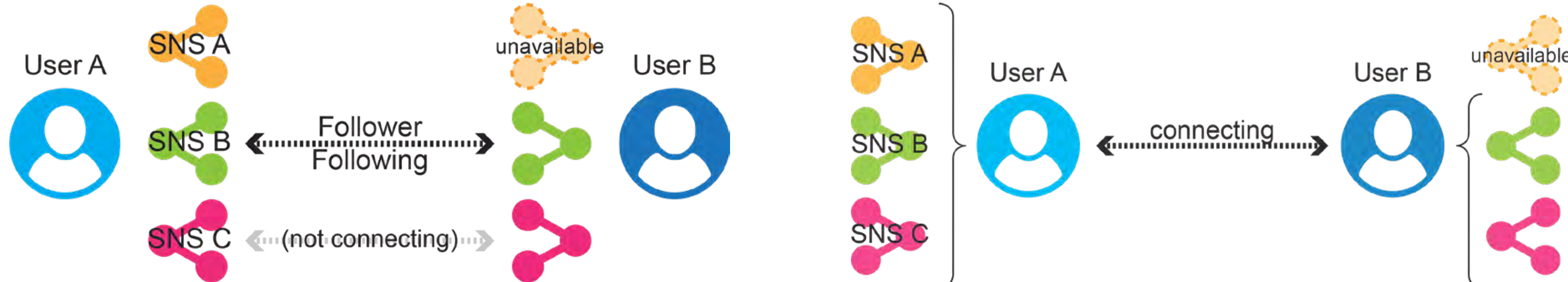
これらを助けるために、「連絡先の交換」に着目し、友達とコラボレーションできる連絡先管理アプリのSACCIMを開発しました。SACCIMで、一つのSNSや連絡手段に依存せず柔軟かつつながりを持つことができると考えています。

### こんなことはありませんか？

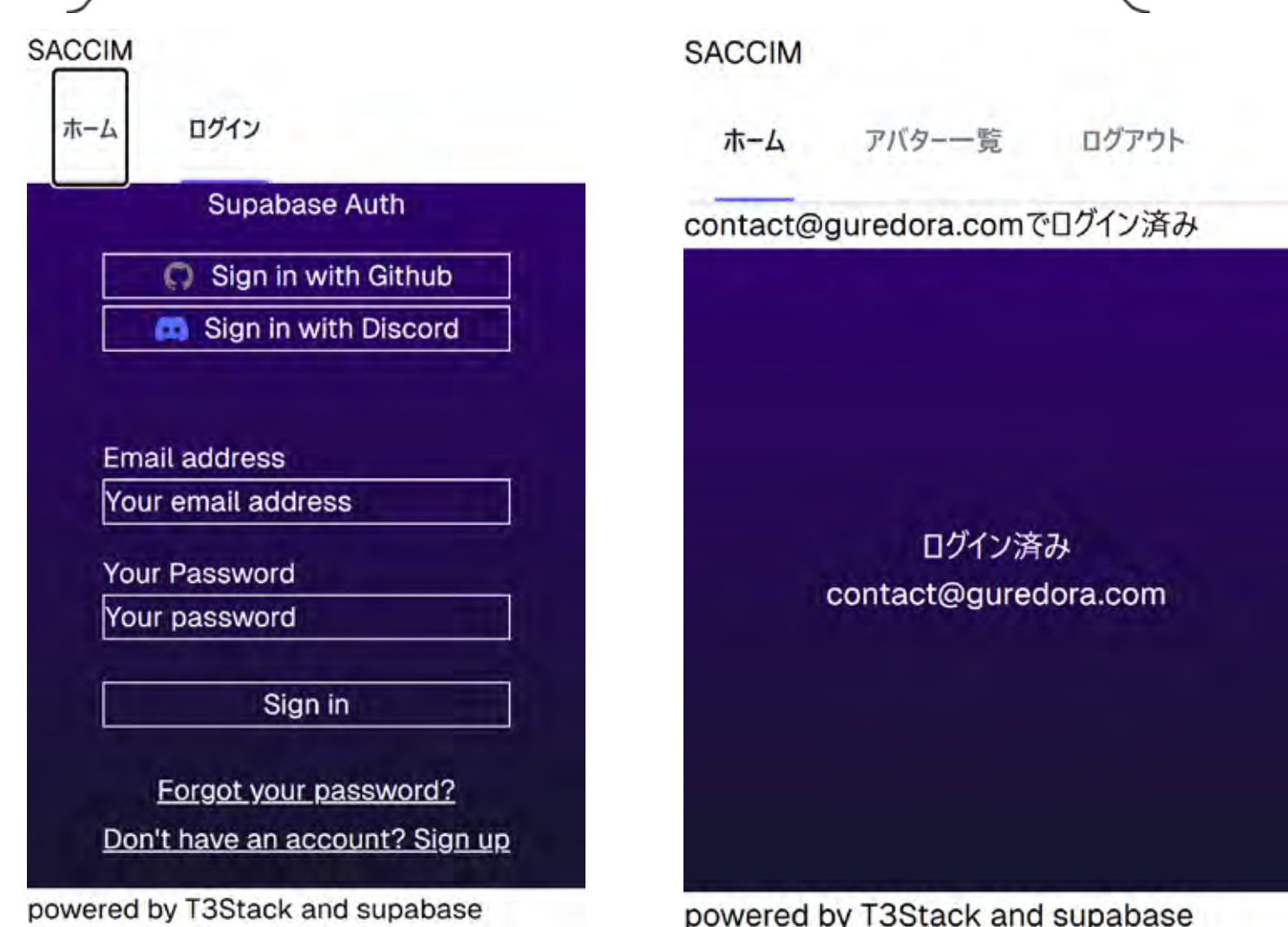
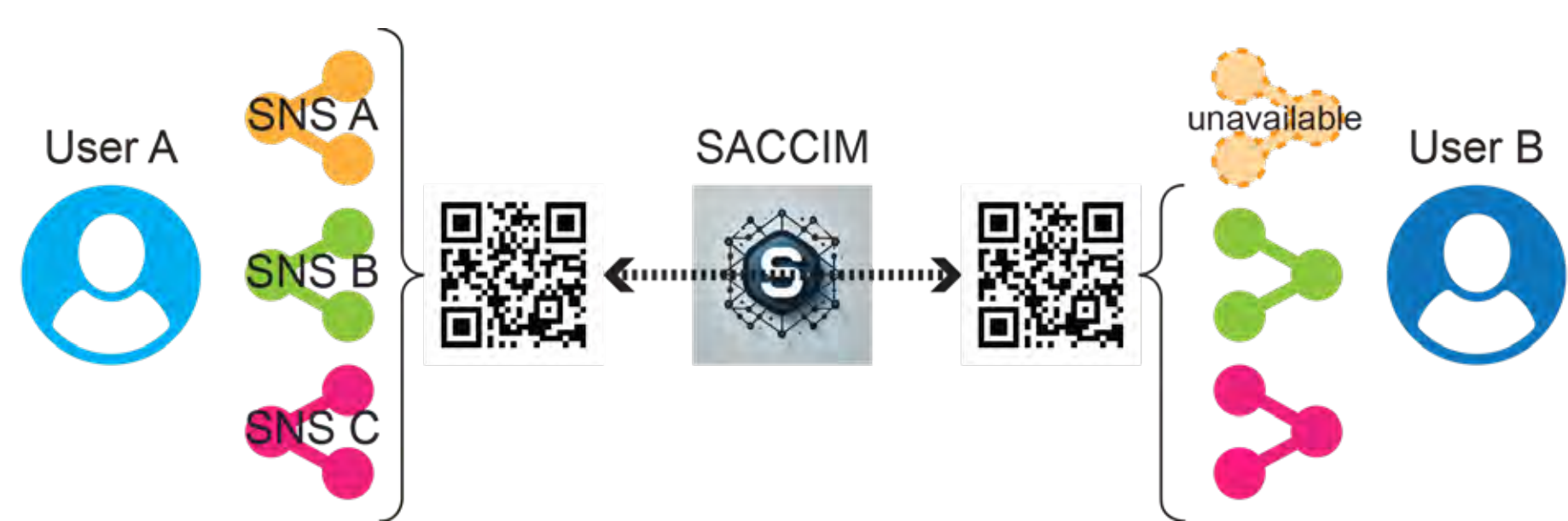
- つながりを失う怖さで、特定のアプリの利用を続ける
- つながり方が分散してしまっている (仕事: Slack、プライベート: LINE)
- 利用率が高い1on1のアプリでのつながりに収束しがち

### 【一つのアプリに頼ってしまう問題点】【従来の連絡先管理アプリとの違い】

- お互いの最適な連絡手段が選べないことがある
  - 一人のひととのつながりが特定のアプリに依存する
  - ⇒ 複数の連絡手段やアプリを選べる状態がよい
- メールソフトのアドレス帳やスマートフォンの連絡先アプリのように、複数の連絡先と「人」を関連付けて管理することを目指しています。



## デジタルのつながりの問題 解決する連絡先管理アプリ



### SACCIM

(Smart And Collaborative Contact Information Manager)

1. 事前に自分の利用可能な連絡先を登録
2. 片方のユーザーがもう一方に友達申請を送信
3. 申請が許可されると、お互いの事前に登録されていた連絡先が交換され、連絡先一覧に名前と一緒に自動登録される
4. 自分の利用可能な連絡先情報を更新するとすべての友達の連絡先一覧に 登録されている情報も更新される



## SACCIMと名刺アプリの関係性

① 連絡先を含めた「自分の情報」を一息に交換するために名刺に着目

③ 複数の連絡先を名刺という形にまとめ一息で開示できる

### Smart And Collaborative Contact Information Manager

② 名刺交換アプリを実装

④ 名刺から連絡先情報の交換に特化させたSACCIMが生まれた

### 【名刺交換アプリで解決】

アカウント作成と名刺内容の登録だけですぐに始められる。デジタルで記録するので紙に比べれば検索性がある。名刺自体ではなく名刺IDを共有することで、情報の変更対応。SNSと同じ感覚で共有できるので、紙の名刺に比べてカジュアル。スクリーンリーダーユーザーが開発しており、程度アクセシブル。

### 【名刺交換アプリを使ったコミュニケーション】

QRコードにアクセスしてログインすれば、僕の名刺が見られます。



## 思索駆動コース 永井慶吾

### 広く浅くの人間関係

大学や社会などの大きな集団で行われる広くて浅いコミュニケーション。相手のことがわからないので何とか調和しようとして疲れてしまう。1対1で関わることがあっても、相手のふるまいが自分に最適化されていないか不安になる。他者とかかわると疲れる。⇒一人でのいるのが好き。

### 他者と関わりたい

たまにものすごく嬉しくなる出会いをすることがあって、ちゃんと人とかかわってよかったとなる。もやもやを共有できた時、好みや興味が似ている人に出会えた時。その時のうれしさは、他者とかかわることでは得られない。そういう人がいたりつながりがあることを意識できれば、他者とかかわるエネルギーにできるはず。そのような「仲良くなるきっかけ」が見つかるかどうかはかなり偶然的。

### 相手の確実さは図れない

相手のふるまいは自分用に最適化されたものかもかも。相手の自分への好感度や位置づけの確実な根拠は、その人自身のふるまいからは得られない。自分が好みか似ているなどもやもやを共有できてうれしくなっている状態も、相手が本当は望んでいないふるまいの結果なのかもしれない。相手のリソーススケジューリングに自分がどこまで割り込んでよいかわからない。

### SACCIMへの思惑

僕は、1対1のメッセージングサービスよりもオープンなソーシャルメディアのつながり方が好き。ゆるくつながった状態で、他者のことを観測して意識できる。実際は無難なメッセージングサービスの交換で完結してしまうことが多い。僕はソーシャルメディアを公開する気があることをさりげなく主張したい。つながり方に自分の意思を挟めるようにしたい。

### 名刺交換アプリの思惑

自分に依存しない相手についての根拠があればよい。相手が自分の意志で事前に記述した自己紹介、つまり名刺を交換できれば、相手のことを理解するとかかりがつかめる。連絡先の交換と同じ感覚でみんなが名刺を交換してほしい。

### 名刺の良さと名刺の問題

名刺は初対面の人に自己紹介の一環として渡すカード。私はこれを、初対面の状態から仲良くなるきっかけを見つけるために利用できないか考え、名刺交換アプリを開発しました。

### 【名刺交換アプリ振り返り】

名刺という名前からどうしてもフォーマルなものが想像されてしまった。その人を端的に知るよりも、その人と仲良くなりたいと思ったことを次につなげたい。その人と仲良くなりたいと思ったことを形にしながら距離を置くために、お互いに連絡可能な状態にしたい。⇒連絡先の交換が行われる。

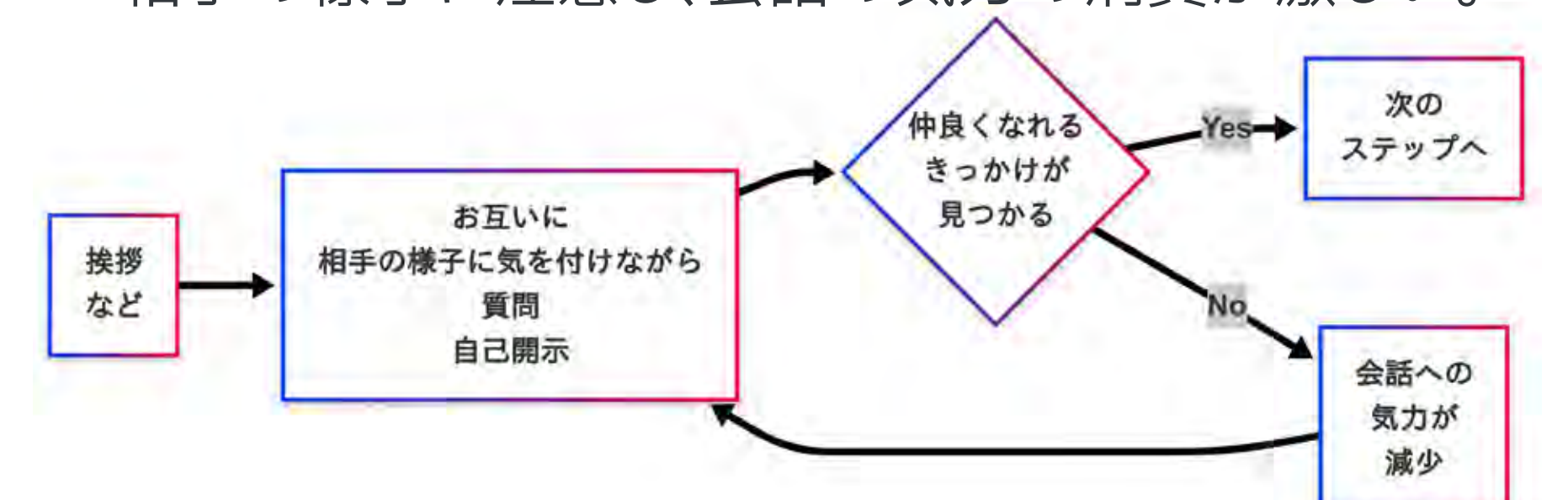
### 名刺で表現できなかったつながりを連絡先の交換で表現

### 【現状の名刺の問題点】

事前に内容を決め印刷する必要があり、ハードルが高い。検索性が低く、整理が難しい。渡してしまった名刺の情報を書き換えられないフォーマルなもの。日常生活の自己開示には向かない。アクセシビリティが低い。

### 【初対面から仲良くなるまで】

相手の様子に注意し、会話の気力の消費が激しい。



## 思索 事始め

大学のような大きな集団では、各人の複雑なリソーススケジューリングのもとに、広くて浅いコミュニケーションが展開されています。SecHack365を通して、このような大きな集団の中でどのように他者とかかわっていけばよいのか、そのためには何が必要なのかについて考えました。